

第4次地域福祉活動計画

(令和7年度～令和11年度)

概要版

みんなで支え合い、共につくる安心なまち



令和7年6月

社会福祉法人
甲州市社会福祉協議会

地域福祉とは

地域福祉とは、それぞれの地域において、性別や年齢、障がいの有無の他、経済的格差などにかかわらず、人びとが安心して暮らせるよう、住民一人ひとりがお互いに支え合い、助け合いながら地域社会をみんなで築いていく取り組みのことです。

そのためには、人と人とのつながりを基本として、住民一人ひとりや地域活動・地域福祉活動を行う人たちのほか、地域の事業所や行政機関などと協働し、それぞれの地域課題に対し、よりよい方策を見つけ出していくことが必要です。このことが「地域福祉の推進」の基本的な考え方です。

🌸 地域福祉を支える4つの「助け合い」

地域福祉を支える4つの「助け合い」

「自助」・「共助」・「公助」・「互助」

地域福祉活動を進めるには、公的に整備されている福祉サービスだけでなく、住民一人ひとりが自分自身や家族と協力し合い解決する「自助」や、地域活動や地域福祉活動を行う人たちのほか、地域の事業所などが連携、または協力しそれぞれの特性を活かして活動をしていく「共助」が重要だとされています。

市では、公的な制度による福祉サービスの整備や、「自助」・「共助」を支援していく「公助」により、地域と協働しながら地域福祉活動を進めていきます。

さらに、福祉に関する支援を必要としている人に対して、きめ細かな配慮や支援を行っていくためには、隣近所に住む住民同士の間での支え合いや助け合いである「互助」の力が欠かせません。

自助

個人や家族による支え合いや助け合い

(最も身近な個人や家族が解決にあたる)

公助

保健・福祉・医療その他の関連する施策に基づく、公的な制度としての福祉サービスの提供による支え合い
(行政でなければできないことは、公的なサービス)

共助

地域で活動を行っている人たちのほか、地域の事業所などが協働しながら、組織的に協力し合う、支え合いや助け合い
(「地域ぐるみ」で福祉活動に参画する地域社会全体での支え合いや助け合い)



互助

身近な人間関係のなかで、互いに近所で自発的に行う支え合いや助け合い
(隣近所の住民同士の相互の支え合いや助け合い)

計画の基本的な考え方

基本理念

「みんなで支え合い、共につくる安心なまち」

この基本理念には、地域社会における連帯と協力の必要性を重視して、次のような意味が込められています。



「みんなで支え合い」

- ◇ 地域住民一人ひとりが、互いに助け合い、支え合うこと。
- ◇ 高齢者、障がい者、子どもなど、支援を必要とする人々を地域全体で支えること。
- ◇ 日頃からの交流やコミュニケーションを通じて、困ったときに助け合える関係性を築くこと。

「共につくる」

- ◇ 地域住民が主体的にまちづくりに参加し、協力して安全で安心なまちをつくること。
- ◇ 行政や関係機関との連携を強化し、地域全体の課題解決に取り組むこと。
- ◇ 多様な意見やアイデアを出し合い、誰もが暮らしやすいまちを目指すこと。

「安心なまち」

- ◇ 災害や犯罪に強く、安全なまち。
- ◇ 地域で生活する誰もが安心して暮らせるまち。
- ◇ 誰もが孤立せず、地域とのつながりを感じられるまち

基本方針

3つの基本方針

1. 「つたわる」では、福祉や地域の身近な情報を提供し、住民一人ひとりが、福祉に対して興味や関心を持つことができ、地域におけるつながりや、支え合いが再認識されることを目指します。
また、地域で暮らす個々の多様性を認め合い、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりに向けた意識啓発にも取り組んでいきます。

2. 「つながる」では、住民同士がつながることで、地域の困りごとに気づき、お互いに支え合える関係性の構築に取り組めます。
また、状況に応じて関係機関へとつなげることで、誰でも安心して暮らし続けられる地域を目指します。

3. 「ささえる」では、相談窓口などに相談できない住民に対して、積極的にアウトリーチを行います。
また、包括的な支援体制を目指し、住民の抱える地域生活課題に対し継続的に支援し、福祉と介護関係者のほか、住民の方々やボランティアなどの地域の社会資源とも連携を図ります。
さらには、家族や地域の支援者が一人で抱え込まず、安心できる体制を目指します。



計画の体系図

基本理念

みんなで支え合い、共につくる安心なまち

基本方針	目指すテーマ	重要関連事業
1 つたわる	① みんなに、つたわる ② ふくしが、つたわる ③ ちいきが、つたわる	社協広報事業 甲州市社会福祉大会 こうしゅう福祉まつり 市民福祉交流事業 ボランティアセンター事業
2 つながる	① 集まって、つながる ② 参加して、つながる ③ 支え合って、つながる	支部社協活動支援事業 ふれあい・いきいきサロン事業 子育てサロン事業 一人暮らし老人親睦事業 生活支援体制整備事業 甲州市老人クラブ連合会運営事業 甲州市民生児童委員連絡協議会運営事業 甲州市ボランティア連絡協議会運営事業 甲州市視覚障害者福祉会の運営 甲州市母子父子相談員連絡協議会運営事業 共同募金会甲州市会事業 災害ボランティアセンター設置運営事業 テレフォンサービス事業 甲州市生活支援サポート事業
3 ササえる	① 聴いて、ささえる ② 出向いて、ささえる ③ 関係して、ささえる ④ 支え手を、ささえる	心配ごと相談事業 無料法律相談事業 権利擁護支援センター事業 生活困窮者自立支援事業 日常生活自立支援事業 法人成年後見事業 居宅介護支援事業(ケアプランセンター) 地域包括支援センター 訪問介護事業 訪問看護事業(訪問看護ステーション)

✿ 3つの基本方針

1. 「つたわる」

(1)現状と課題



現在、社会福祉協議会では「社協だより」、「社協お知らせ版」、「ホームページ」などを通して、定期的に社会福祉協議会の活動情報や地域の情報を発信しています。

甲州市で行った市民アンケート調査では、社会福祉協議会の活動は全体の3割の住民が認知しているという結果でありました。しかし、年齢別では29歳以下の若年層への認知という点では、1割程度となっていること、また年齢層が高くなると認知度が上がっていく傾向があることがわかりました。

これは、年代によって社協事業への関わり、福祉サービス等の利用が増加していることがひとつの要因ではありますが、まだ、福祉の情報発信や地域のニーズ把握や地域に出向いての情報発信が不足していることも事実です。

社会福祉協議会では、事業及び市内12地区に組織している支部の活動を通して、地域のニーズの把握に努めるとともに、福祉に関心がない、福祉を必要としていないという方々に対して、どのように情報を提供していくのか、どのような情報を提供すれば福祉の意識の啓発につながるのか検討していく必要があります。



(2)めざすテーマ

① みんなに、つたわる



住民が身近に感じることができる福祉に関する情報を発信し、より多くの住民に必要とする情報が届けられ、社会福祉協議会の活動の理解者が増えることを目指します。また、住民が福祉に対して興味や関心を持ち、住民がお互いに情報を伝えあえるようになることで、地域のつながりが生まれることを期待します。

② ふくしが、つたわる



住民一人ひとりが、地域や福祉に対する情報に興味や関心を持つことで、個々の多様性を認め合い、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりのための意識啓発を行います。

③ ちいきが、つたわる



地域のニーズ把握に努め、住民が身近に感じられる地域の情報をわかりやすく伝えるとともに、気軽に参加できる機会を創出し、地域への意識や関心が高まることを目指します。

2. 「つながる」



(1) 現状と課題

前回の計画からの5年間にコロナ禍を経験したことで、地域で集まる機会は減少し、人と人とのつながりが以前よりも希薄になるなど、地域のあり様に少なからずの変化が生じました。

その一方で、改めて「人とつながること」「地域でつながること」について、地域や住民自身で思い・考える契機にもなり、つながりの大切さを再認識するきっかけともなりました。

それを裏付けるように、コロナ禍が落ち着き始めると、住民が自主的に集いの場を立ち上げ、住民同士の交流を図る地域が出てきました。また、コロナ禍でも変わらずに活動を続けたサロンや老人クラブもあり、以前のようなつながりが徐々に戻りつつある様子も見えてきています。

課題としては、地域にある集いの場や交流の機会については、農繁期などの地域特性からの不定期での開催や、参加者も世代や障害の有無などで限定されてしまっており、また、役職を担うことへの負担感からか自治会未加入者も増加傾向にあります。地域のつながりが弱くなると、困りごとを抱えている住民にも気づきにくくなり、早期発見・早期解決のアプローチが難しくなります。

さらには、若い世代に向けてどのような形でのアプローチが必要なのかの情報も不足しています。



(2) めざすテーマ

① 集まって、つながる



不定期やスポット的ではなく、地域の日常の中に誰もが気軽に集える場(居場所)があることで、自然と地域のつながりがつくられる関係性が構築されていきます。それにより困りごとを抱えている住民にもいち早く気付くことが可能となり、問題の早期発見・早期解決につなげることが期待できます。

さらに、そのような場が地域に複数あり、住民自身で好きな居場所を選択できるようになることが理想です。

② 参加して、つながる



世代や障害の有無などに関わらず交流できる機会を設け、お互いを理解することでつながりを広げていきます。

③ 支え合って、つながる



地域の担い手が不足している今、支える側・支えられる側と分れるのではなく、お互いに支え合うことでできるつながりも大切です。全ての住民が担い手となりつながることで、地域全体で支え合える地域を目指します。

3.「ささえる」



(1) 現状と課題

コロナ禍以降、人との交流が減り、地域の交流の機会が減少し、困っていることを声に出せないという話声が聞かれます。また、孤立や引きこもり、独居や高齢者のみの世帯などが増加する中で、生活に何らかの不安を抱えていても、発信ができない方もいるという現状があります。

さらには、相談をされた家族や身近な人(支え手)達も、その受けた相談をどうしていいかわからずに自身でできる範囲で支えていることも少なくなく、困りごとの抱え込みや負担感の増加で疲弊してしまう方もいます。

相談窓口も多様化し、どの相談窓口に相談したらいいのかわからないまま困りごとを抱え続けてしまい、課題が積み重なってしまうという状況もあります。

また、他人に迷惑をかけたくない、経済的な負担が心配などという理由で、地域で孤立する人もいます。

福祉サービスを受けたがらないが、地域の中で生活を希望する人に対し、地域で支える支援が必要になっています。



(2) めざすテーマ

① 聴いて、ささえる



少子高齢化や貧困、引きこもり、虐待などの社会問題が複雑・多様化している中で、社会福祉協議会の様々な相談支援の窓口で相談を受け、本人とともに考え、地域で安心して生活できるよう困りごとの解決を図ります。

② 出向いて、ささえる



相談窓口があっても相談できない、また支援や福祉サービスにつながない住民に対して、積極的にアウトリーチを行い、早期に困りごとを解決できるしくみ作りを目指します。

③ 関係して、ささえる



包括的な支援体制の構築を目指し、住民の抱える地域生活課題に対し、継続的に支援するとともに、福祉や介護など関係者のほか、住民の方々やボランティアなどの地域の社会資源とも連携を図ります。

④ 支え手を、ささえる



当事者だけでなく、家族や地域の支え手が困りごとを一人で抱え込むことなく相談できる体制を整え、支え手が不安なく支援を継続できることを目指します。



社会福祉法人 甲州市社会福祉協議会

令和7年6月発行

住所 〒404-0042 山梨県甲州市塩山上於曾977-5

電話 0553-34-8195 / FAX 0553-34-9270

URL <http://www.koshushishakyo.or.jp/>